👢 2021年度の業績

事業の概況について

エリア内の少子高齢化等による人口や企業数の減少、金融緩和の顕在化及び新型コロナウイルスの感染拡大等により経 済の停滞が長期化するなど厳しい環境下ではありましたが、初年度でもある"おおかわしんきん「支援力の強化と変革への挑 戦」3か年計画"の新長期経営計画に基づき、各種施策にそれぞれが注力することで、着実に計画を遂行して収益確保に努 めました。また、地域金融機関として地元企業に対し、地域の経済が停滞しないよう伴走型の経営支援に努め、当金庫が従 来から取組んできた「地域活性化のための地域貢献事業」により、企業の技術力を活かした「ものづくり補助金」等の申請支 援や地域企業の悩みや課題解決に向けた専門家派遣等の経営改善を支援していくことで営業基盤の強化に努めました。

新長期経営計画のスローガンである「S(サポート)、C(コミュニティ)、C(チャレンジ)~常にお客さま・地域を支え、地域 の中で一番の地域金融機関として、新しい未来へ繋がるために挑戦する~」と行動方針である、「スピード」・「スマイル」・「プ ラスワン」を更に定着させ、徹底した企業支援、地域支援等によるおもてなしの信用金庫を目指すことをスローガンにお客様 の満足度向上に取り組みました。

2021年度決算概要

1)主要損益概況

収益面においては、低金利である新型コロナウイ ルス感染症対策資金等の残高比率が増加したことで 貸出金利回りは低下、貸出金残高についても資金需 要の低下により平残ベースで374百万円の減少と なり貸出金利息が44百万円の減少となった反面、 預け金利息は3百万円の微増となり、資金運用収益 は42百万円の減収となりました。しかし、信用コ ストや国債等債券売却損の減少、経費の50百万円 削減もあり、経常利益は対前期比218百万円増加 の322百万円となり、固定資産減損135百万円 を行なったものの、当期純利益は165百万円と対 前期比53百万円の増益となりました。

②預貸金の状況

2022年3月期決算において、資産の主要勘定 である貸出金は、新型コロナウイルス感染症対策資 金等の一巡による資金需要の低下が影響したこと で、平残ベースで対前期比374百万円の減少となり ました。一方、負債の主要勘定である預金積金は、 新型コロナウイルス感染症対策資金等の滞留、また 預金開拓や年金受取口座の地道な推進等により、平 残べースで7.656百万円の増加となり、総資産 においても、平残ベースで7,585百万円の増加 となりました。

■ 預金残高の推移



■ 収益の推移

業務純益

一般企業の営業利益に相当 するもので、本来の業務によ って得られた利益のことです。



600 500 400 322 300 200 128 103 100 2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期

経常利益

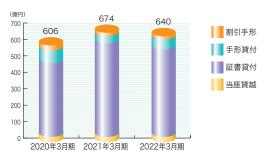
業務純益に株式の売却損益 ・償却および不良債権処理に 要した費用等を加減したもの

当期純利益

経常利益に特別損益および 税金等を加減した最終的な 利益です。



■ 貸出金残高の推移



自己資本比率について

自己資本比率は、金融機関の健全性を示す重要な指標で、リスクアセット(総資産のうち、万が一の場合に貸倒れの可能性がある資産)に対して、自己資本(出資金・積立金等)がどれくらいあるかを示す指標のことで、この比率が高いほど経営の健全性が高いといえます。当金庫のように国内にのみ支店がある金融機関は、自己資本比率4%以上を維持することが求められています。

当金庫の自己資本比率は、今期も内部留保の積上げを行い、自己資本の充実に努めた結果16.84%となり、高い水準 を維持しております。



自己資本比率= 11,494百万円(自己資本の額) 64,915百万円(信用リスク)+3,307百万円(オペレーショナルリスク)=16.84%

【自己資本総額】出資・法定準備金・諸積立金の合計

【信用リスク】取引先の倒産や財務状況の悪化などにより、損失が発生する可能性のある資産の総額 【オペレーショナルリスク】金庫の業務上において不適切な処理等で生じる事象により、損失が発生する可能性の ある資産の総額

- ・方針・手続及び評価方法の概要等は、66頁をご参照下さい。
- ・上記自己資本比率算出の基礎計数は、58~59頁をご参照下さい。

当金庫が対処すべき課題

今後も地域の経済状況は、長引く新型コロナウイルス感染や円安による原油を含む資源や物価高騰の影響を受け、企業の業績悪化や個人所得の減少により低迷が続くことが予想されます。また、少子高齢化等の人口構造の変化を背景とした取引先企業や人口の減少が続くなかで、当金庫の状況は、他の金融機関との競争激化等により、更に厳しい収益環境になっていくと予想されます。

このような環境の下、お客様とのリレーションシップを追求し、地域に根ざした協同組織金融機関として、会員、お客様、そして地域が抱える課題の解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の成長の貢献に努めていきます。地元第一・お客様第一の経営を実践するための強固な経営基盤の構築に向けて、創意工夫による様々な改革や新たなチャレンジにより経営体質を強化することにより、地域社会に期待され、信頼される金庫を目指してまいります。